

ロシアがウクライナに侵攻した今回の戦争は、プーチンの戦争と呼ばれる。実際に戦闘行為を行っているのは多くのロシア兵士かもしれないが、プーチン大統領という独裁的な指導者の独断で物事が動いているように見える。プーチン大統領の周りには大統領にノーと言える側近は残っていないだろう。多様な見方や情報が大統領に集まることなく、誤った判断で突き進むことになる。

今回のロシアの事例は専制君主のもつ問題点を浮き彫りにした。重要な決定事項が一握りの人の判断に任せられている社会では、その一握りの人の判断が間違っていれば、社会を破滅の方向に突き進めることになるからだ。ロシアの国民の多くはプーチンの戦争を望んでいないはずだ。あるいは、国内の報道がコントロールされていて、ロシアの国民には本当の姿が伝わっていないのかも

学習院大教授(国際経済学)

伊藤 元重

### 論壇

しない。

ウクライナの人の映像が流れているが、彼女のロシアの母に戦争が起きていることを電話で話しても、母は戦争が起きていることを信じないそうだ。ロシア国内でテレビを見ているとそういうことになるのかも。第2次世界大戦中の日本国内での報道の姿を思い出した。

### 専制と民主主義

危険を感じる人は多いだろう。現実には、新型コロナウイルス対策で中国はゼロ感染という他国には見られない極端なロックダウン政策をとったが、ここに来て、そうした政策がうまく機能していないが見えてきた。それでも中国が対応の方針の方向を変えようとは難しい。台湾問題で中国の独裁政権が突っ走ったら、日本も含むアジア周辺国には甚大な影響

強さを強調する。中国がよく引き合いに出来る。新幹線や高速道路を非常に短期間に建設する力があるのは、政府の力の強さがあるからだ。道路ひとつなかなか通せない日本とは違う。ただ、その独裁色の強い政府がもし重大な過ちを犯したら、社会も周辺国も大変なことになる。いまの中国に、そうした独裁の罫の

が及ぶことだろう。台湾に住んでいる人たちの人生は大変なことになるだろう。

2007年から12年にかけて、日本では安倍晋三首相(第1次)から野田佳彦首相まで、6年の間に6人の首相が誕生したことがある。大統領の任期が5年と決まっている韓国とは大違いだ。当時、韓国の友人に

「日本では首相が毎年代わっているので、政治が機能していない」と嘆いたら、「それでも好ましくないトランプを簡単に代えることができる制度は素晴らしい。韓国ではどんな悪いトランプでも5年間は居座るのだから」と言っていたことを思い出した。

いろいろな意見が出て、なかなか物事が先に進まない。政治の抗争が頻発して、政権が不安定である。民主主義の問題点としてよく指摘されることだ。しかし、そうした問題点が、同時に民主主義の強さでもある。少数の独裁者に決定を委ねる政治体制はあまりにも危険であるのだ。

英国の首相を務めたウィンストン・チャーチルに次の有名な言葉がある。「民主主義は最悪の政治形態と言つことができる。これまでに試みられてきた民主主義以外のあらゆる政治形態を除けば、だが」。その通りであると思う。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。